

いつも心に太陽を

令和3年6月30日 発行：田中 克樹

○身近な危険生物。見つけたら先生に報告してください。

気温が上がり、夏らしい季節になってきました。こんな時期には、人間だけでなく、身の周りに住む野生生物も活動が活発化します。中には毒を持った危険生物もいるので、注意してください。基本的に動物や野生の生物には触ろうとしたり、刺激したりしないでください。発見したらすぐに先生に報告してください。

身近な危険生物

1、マムシ…全長45～65cm。三角形の頭を持ち、小型でおとなしい。刺激しなければ、自分から噛みつくことはない。夜行性で、昼間は草の影などに身を潜めるので、気づかずに踏んでしまうと噛みつく。斑の模様がある。



2、ヤマカガシ…一般的に赤と黒のカラフルな体色が目印だが、黒っぽいものもいる。実はマムシの4倍近い強力な毒を持つ。無類のカエル好きなので、カエルのいるところにはどこでも現れる。臆病だが、刺激すると噛みつく。

3、セアカゴケグモ…大きな赤い目印があるメスのみ毒を持つ。学校の外壁や側溝など日当たりの良い場所を好んで巣を作る。噛まれると痛みや発熱が数日から数週間続く。



4、ジャンボタニシ…広く田畑に分布する、南米原産の外来種。寄生虫を持つ可能性があり、傷口から寄生虫が体内に入ると命にかかわる場合もある。ピンク色の卵にも毒性がある。

※このほかスズメバチには非常に強力な毒や攻撃性があり危険。サル、タヌキ、モグラなどの自然動物も鋭い牙や狂犬病などの病気を持っているので、刺激したり、目を合わせたりしてはいけない。季節によっては出くわすだけで攻撃してくる場合もある。